

日本植物形態学会第34回総会・大会（京都大会）のご案内（第3回）

日本植物形態学会第34回総会・大会は、対面（オンサイト）での実施を予定しておりますが、現時点での新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大を鑑みて、感染者、および濃厚接触者への対応として、一部非対面（オフサイト）のオンラインを用いたハイブリッド形式での実施といたします。

本大会は十分な予防措置を講じた上で開催します。参加者の皆さまには、当日の体調を確認いただき、発熱や咳などの新型コロナと疑わしき症状のある方は、対面（オンサイト）出席を断念いただけますようお願いいたします。また、オンサイト参加者は、密の回避、マスク着用、入室前などの手指の消毒をお願いいたします。なお、会期中に新型コロナウイルスに感染した場合の責任を、日本植物形態学会、大会実行委員会、およびその関係者は負いかねますことを予めご了承ください。

第34回大会会長、兼大会実行委員長：西村 芳樹（京都大）

第34回大会準備委員長：宮沢 豊（山形大）

第34回大会準備委員：松崎 令（国立環境研）

第34回大会会計委員長：岩元 明敏（神奈川大）

日本植物形態学会会長：野崎 久義（東京大/国立環境研）

日本植物形態学会庶務幹事：林 八寿子（新潟大）

1. 期日 2022年9月16日（金）

2. 会場 京都府立大学下鴨キャンパス 京都府立 京都学・歴彩館

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-29) 京都市営地下鉄【烏丸線】北山駅 [K03](1番、3番出口)南へ徒歩約4分。 <https://rekisaikan.jp/>（アクセス方法：参考ページ参照）

3. 実施形式：ハイブリッド形式

評議員会、ポスター発表は対面形式のみ、総会・授賞式、講演会、ポスターフラッシュはハイブリッド形式で行います。非対面のオンライン発表・講演は、感染者、および濃厚接触者を想定していますが、参加申込者は、一部のオンライン聴講も可能です。ただし、オンラインで聴講・発表できる部分、および利用できる発表者ツールは限定されておりますのでご了承ください。非対面のオンライン参加方式の情報は参加申込者全員に別途お知らせします。

4. プログラム^(注1)

10:30-11:20 評議員会 (京都学・歴彩館 1F 大ホール)

12:10-13:10 総会、および授賞式 (京都学・歴彩館 1F 大ホール)

「学会賞」松永 幸大 氏（東大・院・新領域創成）

「平瀬賞」 Asaoka M, Ooe M, Gunji S, Milani P, Runel G, Horiguchi G, Hamant O, Sawa S, Tsukaya H, Ferjani A (2021) . Stem integrity in *Arabidopsis thaliana* requires a load-bearing epidermis. *Development* 148(4):dev198028. doi: 10.1242/dev.198028. 代表受賞者 Ferjani Ali 氏 (東京学芸大学)

「奨励賞」 大井 崇生 氏 (名古屋大・院・生命農学)
山下 翔大 氏 (遺伝研・遺伝形質)

13:20-15:05 講演会 (京都学・歴彩館 1F 大ホール)

●奨励賞受賞講演 (13:20-13:40)

「植物の組織・細胞における内部微細構造の三次元解析」

大井 崇生 氏

●奨励賞受賞講演 (13:45-14:05)

「ボルボックス系列緑藻アストレフォメネの発生学的解析とゲノム解読を用いた多細胞形質の平行進化に関する研究」

山下 翔大 氏

●平瀬賞受賞講演 (14:10-14:30)

「Mind the Crack: Epidermis is the Load-bearing Layer that Controls Flowering Stem Integrity in *Arabidopsis thaliana*」

Ferjani Ali 氏

●学会賞受賞講演 (14:35-15:15)

「器官再生や環境応答を支えるクロマチン動態制御メカニズムの解明」

松永 幸大 氏

15:20-16:40 ポスターフラッシュ^(注2) (京都学・歴彩館 1F 大ホール)

16:50-19:00 ポスター発表／ポスター賞表彰^(注3) (京都学・歴彩館 1F 小ホール)

16:50-17:40 奇数番号, 17:40-18:30 偶数番号, 18:45-19:00 表彰式

(番号については後掲の一般講演プログラムをご覧ください)

注 1) 新型コロナウイルス流行の状況に応じて、場所・時刻については変更の可能性があります。本学会のウェブサイトを確認ください。

注 2) 事前提出していただく概要をスクリーンに投影いたします。持ち時間 (90 秒)内にマイクを用いて口頭発表してください。概要は PDF ファイル(A4 横向き:3MB 以内)1~2枚にまとめて、9 月 14 日(水) 17:00 までに e-mail で大会準備委員(国立環境研 松崎 令, matsuzaki.ryo@nies.go.jp)までお送り下さい。その際、ファイル名は「形態学会ポスターフラッシュ_氏名.pdf」、電子メールのタイトルは「形態学会ポスターフラッシュ_氏名」としてください。なお、ファイルを e-mail で送付できない方は、事前に e-mail で上記大会準備委員(松崎)まで連絡の上ご相談ください。

注 3) ポスター賞の対象は学生の発表ポスター限定です。投票権は対面形式での参加者だけとします。

- ※ 大会参加者の皆様は、まず受付（10：00 開始）にて名札をお受け取りください。
- ※ 講演会終了後は速やかにポスター会場へ移動してください。
- ※ ポスター賞の投票は 18：30 までをお願いします。
- ※ ポスターの貼り付けは 11:00 から可能です。ポスターセッション終了後は、速やかにポスターを回収してください。
- ※ 評議員会・総会と受賞講演会場の大ホールは飲み物のみ可。ほっとすパーすという休憩室でお弁当は食べられますが、席数は多くありません。

5. ポスター発表プログラム（申し込み順、発表者は○、学生演者（ポスター賞対象者）は下線）

- P-001 シロイヌナズナ排水組織の蛍光顕微鏡および電子顕微鏡イメージング**
 ○八木宏樹¹, 三原衣織², 嶋田知生³, 西村いくこ², 上田晴子^{1, 2}
¹甲南大・院・自然科学, ²甲南大・理工, ³京大・院・理
- P-002 自作 近赤外線 DHM によりライブイメージング**
 ○大槻涼
 駒澤大・総合教育研究部
- P-003 ゼニゴケ胞子体の蒴柄の形態観察と発生制御メカニズムの解明**
 ○守屋健太¹, 白川一², 松田頼子³, 田村謙太郎⁴, 岡義人¹, 松下智直¹,
 西村いくこ⁵, 西浜竜一^{3, 6}, 河内孝之³, 嶋田知生¹
¹京大・院・理, ²奈良先端大・先端科学技術, ³京大・院・生命, ⁴静岡県立大・食品栄養,
⁵甲南大・理工, ⁶東京理科大・理工
- P-004 X線マイクロCTを用いたイネの開花前後の鱗被の形態解析**
 ○安藤詩織¹, 河合恭甫², 上口(田中)美弥子², 大井崇生¹
¹名大・院・生命農, ²名大・生物機能開発利用研究センター
- P-005 メタボロミクスによる細胞数と細胞サイズの協調を担う代謝産物群の探索**
 ○多部田弘光^{1, 2, 3}, 佐藤心郎², 郡司玄¹, 塚谷裕一⁴, 平井優美², Ferjani Ali³
¹学芸大・教育・生命, ²理研 CSRS, ³東大・院・総合文化, ⁴東大・院・理
- P-006 カンアオイ属のがく片における多様な表面微細構造**
 ○加藤優太¹, 奥山雄大²
¹名大・生命農, ²科博
- P-007 LMD 法を用いた植物ホルモン・遺伝子発現の時空間的解析**
 ○朝比奈雅志^{1, 2}, 山田一貴¹, 中野渡幸¹, 湯本絵美², 佐藤忍³
¹帝京大・理工・バイオ, ²帝京大・先端機器分析セ, ³筑波大・生命環境
- P-008 モノフィレア特異的な分裂組織における境界領域遺伝子 CUP-SHAPED COTYLEDON (CUC) オーソログの役割について**
 ○中村駿志, 木下綾華, 古賀皓之, 塚谷裕一
 東大・院・理
- P-009 分裂準備帯形成過程に現れるアクチンウォールとその役割**
 ○飯塚駿作¹, 玉置大介², 中井朋則³, 唐原一郎², 峰雪芳宣³
¹富山大・院・理工, ²富山大・学術・理, ³兵庫県大・院・理
- P-010 単細胞緑藻クラミドモナスで見られる PCD 様現象の解析**
 ○角田和亮¹, 佐々木大和², 大濱武³, 林八寿子^{1, 2}
¹新潟大・院・自然科学, ²新潟大・理・理, ³高知工科大・環境理工
- P-011 放射光 X 線と X 線造影剤を用いた茎内部の観察の試み**
 ○亀沢知夏, 兵藤一行

- 高エネ機構・物構研
- P-012 機能阻害で葉緑体内に小胞様構造が出現する PpSLH の局在を決めているドメインの解析**
○緒方玲香¹, 武智克彰², 高野博義²
¹熊本大・院・自然科学, ²熊本大・院・先端科学
- P-013 擬似微小重力環境が水生植物 *Coleochaete scutata* の細胞分裂及び藻体形成に与える影響**
○成瀬真友香¹, 唐原一郎², 玉置大介²
¹富山大・院・理工, ²富山大・学術・理
- P-014 X線マイクロCTを用いたミヤコグサ種子吸水過程における形態変化の観察：タイムラプスイメージングによる解析**
○米田早秀¹, 中井朋則¹, 玉置大介², 上杉健太郎³, 星野真人³, 唐原一郎², 峰雪芳宣¹, 山内大輔¹
¹兵庫県大・院・理, ²富山大・学術・理, ³高輝度光科学研究センター
- P-015 領域特異的トランスクリプトーム解析の植物への適用にむけて**
坂本鮎菜¹, 武田紀子², ○新垣陽子¹, 豊岡公德², 内海貴夫¹
¹レリクサ, ²理研 CSRS
- P-016 スイカの縞パターン形成を、器官成長を導入した細胞ベースの数理解析モデルで再現する**
○藤原基洋
JT 生命誌研究館
- P-017 根端分裂組織の輪郭の形は維管束植物で共通するか-数理解析から-**
○陸野里音¹, 藤原基洋², 藤浪 理恵子³, 犬飼義明⁴, 郷達明⁵, 藤本仰一¹
¹阪大・院・理, ²JT 生命誌研究館, ³京都教育大・理, ⁴名大・農学国際教育研究センター, ⁵奈良先端大・院・先端科学技術
- P-018 シロイヌナズナのセントロメア配置制御に関わる核膜孔複合体の機能解析**
○伊藤ななみ¹, 坂本卓也², 坂本勇貴³, 松永幸大¹
¹東大・院・新領域, ²東理大・理工・応用生物, ³阪大・院・理
- P-019 シュート再生能の獲得に関与するヒストンメチル化酵素の機能解析**
○右橋雅子¹, 坂本卓也², 大矢恵代³, 稲垣宗一³, 鈴木穰⁴, 角谷徹仁^{3, 5}, 松永幸大¹
¹東大・院・新領域・先端生命, ²東理大・理工・応用生物, ³東大・院・理, ⁴東大・院・新領域, ⁵遺伝研
- P-020 単細胞藻類シゾンを用いた 1 細胞形成エネルギーの定量**
○近藤唯貴, 吉田大和
東大・院・理
- P-021 酸性温泉の土壌細菌叢のメタゲノム解析**
○内山佳奈子, 三角修己
山口大・院・創成科学
- P-022 シロイヌナズナにおけるヒストン H3K4me3 のライブイメージング解析**
○松岡慈¹, 坂本卓也², 澁田未央³, 佐藤優子⁴, 木村宏⁴, 松永幸大¹
¹東大・院・新領域, ²東理大・理工・応用生物, ³山形大・理, ⁴東工大・科学技術創成研究院
- P-023 アクチン脱重合因子は細胞核内構造及び遺伝子発現の制御に関与する**
○松本朋子¹, 稲田のりこ^{1, 2}
¹大阪府大・院・生命環境, ²大阪公立大・院・農学
- P-024 単細胞紅藻 *Galdieria partita* の従属栄養成長にตอบสนองした細胞の白色化の解析**
○山下翔大, 廣岡俊亮, 藤原崇之, 宮城島進也

遺伝研・遺伝形質

- P-025** γ 線照射によるシュート再生能力向上の分子メカニズム解析
○橋正隆平¹, 佐藤輝¹, 坂本卓也², 坂本勇貴³, 鈴木孝征⁴, 松永幸大¹
¹東大・院・新領域, ²東理大・理工・応用生物, ³阪大・理・生物科学,
⁴中部大・院・応用生物
- P-026** 植物ホルモン ABA は倍数体間交雑の障壁を緩和する
Wenjia Xu^{1, 2}, ○Hikaru Sato^{1, 3}, Heinrich Bente^{1, 4}, Juan Santos-González¹, Claudia Köhler^{1, 4}
¹SLU, Uppsala BioCenter, ²INRA, AgroParisTech, ³Tokyo Univ., Dept. Integrated Sciences, ⁴MPI, Molecular Plant Physiology
- P-027** ヒマヤスギ周囲における植物の選択的な生育阻害について
～生育の可否を決める要因の検討～
○柳井千花¹, 酒井敦²
¹奈良女子大・院・化学生物環境学専攻, ²奈良女子大・理・生物
- P-028** カニの存在がマングローブ植物および干潟砂泥に及ぼす影響
○阿山真唯¹, 酒井敦²
¹奈良女子大・院・化学生物環境学専攻, ²奈良女子大・理・生物
- P-029** セイタカアワダチソウ地下部由来揮発性物質がセイタカアワダチソウ自身の成長に及ぼす影響
○鎌野奈穂¹, 酒井敦²
¹奈良女子大・院・化学生物環境学専攻, ²奈良女子大・理・生物
- P-030** 水草アワゴケ属のユニークな自家受精様式「内性隣花受精」の形態学的観察
○八廣遥斗, 塚谷裕一, 古賀皓之
東大・理・生物
- P-031** 氷雪性緑藻 *Chloromonas muramotoi* の培養株における接合子形成の誘導, および野外サンプル中の接合子との形態比較
○松崎令^{1, 2}, 鈴木石根², 野崎久義^{1, 3}, 野原精一¹, 河地正伸¹
¹環境研・生物多様性, ²筑波大・生命環境, ³東大・理
- P-032** イチョウの葉原基における形態形成過程の解析手法
○砂川勇太¹, 江崎和音², 塚谷裕一¹
¹東大・理・生物, ²立教大・理・生命理
- P-033** *Silene* 属植物の全ゲノム比較解析から性の成立過程を紐解く
○藤田尚子¹, 白澤健太², 牛島幸一郎¹, 赤木剛士¹
¹岡山大・院・環境生命科学, ²かずさ DNA 研究所
- P-034** 精細胞と栄養核の個別動態に着目したシロイヌナズナ花粉管ライブイメージング解析
○元村一基^{1, 2}, 松本歩³, 竹田篤史¹, 丸山大輔⁴
¹立命館大・院・生命, ²JST・さきがけ, ³立命館大・総研, ⁴横浜市大・木原生研
- P-035** 種々の高濃度の生理活性物質投与により誘導されるプログラム細胞死
○中島春果¹, 酒井敦²
¹奈良女子大・院・化学生物環境学専攻, ²奈良女子大・理・生物
- P-036** 裸子植物ソテツの泳ぐ精子：単離精子を用いた *in vitro* 精子誘引実験系の開発
○外山侑穂, 奥田哲弘, 吉田大和, 東山哲也
東大・理・生物
- P-037** 褐藻クロガシラにおける細胞質分裂時のアクチンプレートと隔膜の関係性
○青木日向子¹, Christos Katsaros², 本村泰三³, 長里千香子³
¹北大・院・環境科学, ²National and Kapodistrian University of Athens, ³北大・北方セ
- P-038** 広域 SEM 法を用いたシロイヌナズナ葉表皮細胞におけるオルガネラの定量的な細胞内分布解析

○秋田佳恵¹, 高木智子^{1, 2}, 小林啓子¹, 檜垣匠³, 馳澤盛一郎⁴, 永田典子^{1, 2}
¹日本女子大・理, ²日本女子大・電頭, ³熊本大・院・先端科学, ⁴法政大・生命科学

P-039 アワゴケ属陸生種のシュート再生の条件検討

○上村智稀, 古賀皓之, 塚谷裕一
東大・院・理

6. 大会参加申し込み状況 (50 音順)

青木日向子, 秋田佳恵, 朝比奈雅志, 阿山真唯, 新垣陽子, Ferjani Ali, 安藤詩織, 飯塚駿作, 伊藤ななみ, 稲田のりこ, 岩元明敏, 内海貴夫, 内山佳奈子, 大井崇生, 大槻涼, 緒方玲香, 加藤優太, 鎌野奈穂, 上村智稀, 亀沢知夏, 黒岩常祥, 黒岩晴子, 古賀皓之, 近藤唯貴, 酒井敦, 坂本勇貴, 佐藤輝, 澁田未央, 鈴木智子, 砂川勇太, 高野博嘉, 多部田弘光, 玉置大介, 角田和亮, 戸田絵梨香, 外山侑穂, 豊岡公德, ドル有生, 長里千香子, 中島春果, 永田典子, 中村駿志, 成瀬真友香, 西村芳樹, 野口哲子, 野口真希, 野崎久義, 橋正隆平, 幡野恭子, 林八寿子, 東山哲也, 廣岡俊亮, 藤田尚子, 藤原崇之, 藤原基洋, 堀口吾朗, 松岡慈, 松崎令, 松永幸大, 松本朋子, 右橋雅子, 三角修己, 峰雪芳宣, 宮城島進也, 宮沢豊, 陸野里音, 茂木祐子, 元村一基, 森川龍, 守屋健太, 八木宏樹, 安原裕紀, 柳井千花, 八廣遥斗, 山内大輔, 山下翔大, 米田早秀

7. 日本植物学会第 85 回大会における共催シンポジウム

9月15日(木), 9月17日(土)~9月19日(月・祝)に開催される日本植物学会第86回大会において, 日本植物形態学会が共催するシンポジウム2件が開催されます。こちらにも奮ってご参加ください。

◎JPR 国際シンポジウム (9月17日(土) 9:30~12:30, F会場)

「Mechanical forces in plant growth and development」

Organizers : Akitoshi Iwamoto (Kanagawa University) , Mariko Asaoka (Kanagawa University)

[シンポジウム概要]

本シンポジウムでは機械的な力 (Mechanical forces) が植物の成長・発達に及ぼす影響を多角的に捉え, 両者の普遍的な関係性を検討することを目的とする。シンポジウム前半4題では, 特に花の形態形成と機械的な力との関係性に着目し, その進化的傾向, 実際の例, 実験的検証について解説する。後半2題では, 機械的な力と植物の成長・発達の関係性を分子遺伝学的なアプローチによって明らかにした研究成果を紹介する。

◎一般シンポジウム (9月19日(月) 9:00~12:00, B会場)

「プレノイド: 植物の相分離オルガネラのカッティング・エッジ」

オーガナイザー: 山野 隆志 (京都大学) , 平川 泰久 (筑波大学) , 松崎 令 (国立環境研究所)

[シンポジウム概要]

葉緑体内で RubisCO が集まり作られるピレノイドは、CO₂ 固定の中心的役割を担う重要なオルガネラである。ピレノイド研究の歴史は古く、形態分類学分野を中心に行われてきたが、近年は緑藻のピレノイドを液-液相分離させる分子の発見など、ピレノイド形成の分子メカニズムに関する研究も大きく進展している。本シンポジウムでは、ピレノイドをもつ多様な藻類やツノゴケ類での研究最前線を共有し、その多様性や普遍性を議論するとともに、今後の研究展望についても討論したい。

8. その他

- A. 要旨集は 9 月 9 日（金）までに学会ホームページに掲載する予定です。ダウンロードしてご利用下さい。
- B. 特許出願予定の内容を含む発表をされる場合は、予め特許庁に所定の手続きをお取り下さい。
- C. 大会についての連絡、お問い合わせ等は、下記までお願いいたします。

[連絡先] 〒990-8560

山形県山形市小白川町1-4-12 山形大学理学部内
日本植物形態学会 第 34 回大会準備委員長 宮沢 豊
Tel/Fax: 023-628-4614
E-mail: miyazawa@sci.kj.yamagata-u.ac.jp

<参考>

京都府立京都学・歴彩館へのアクセス（徒歩5分程度）

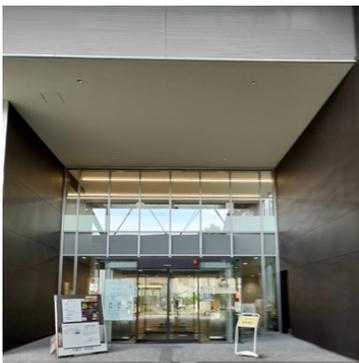
- ① 京都市営地下鉄 烏丸線「北山駅」1番出口をでて、右に向かってください。



- ② 道なりまっすぐお進みください。
③ 右手に歴彩館が見えてきます。



- ④ 正面入り口の様子。

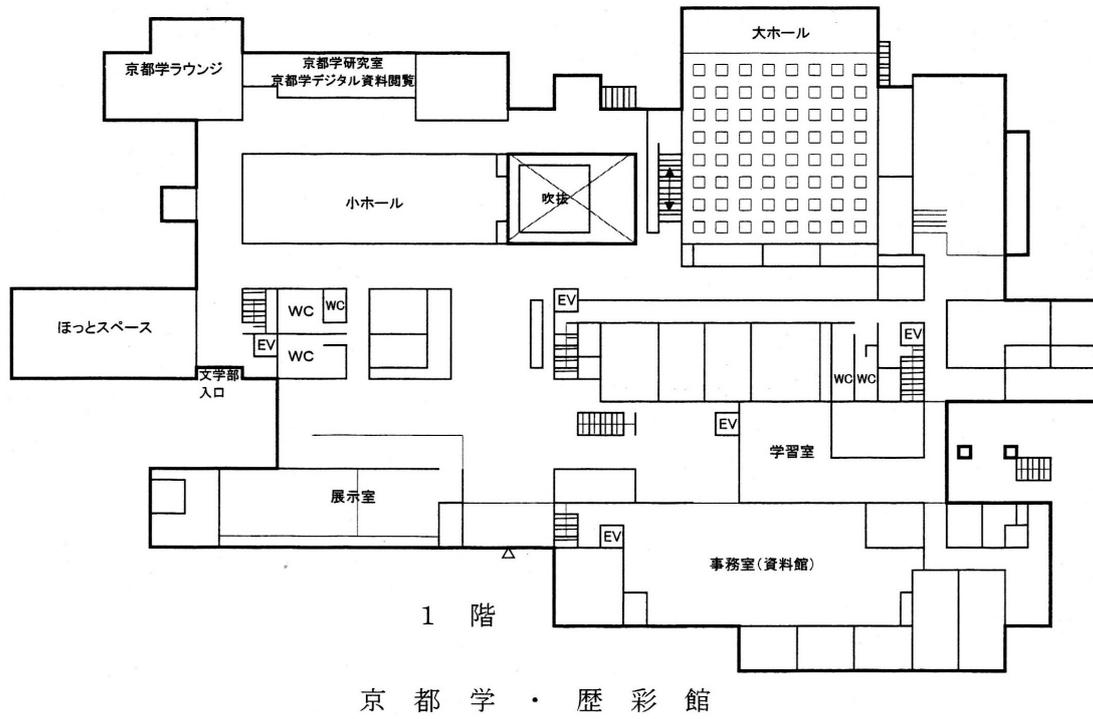


昼食について

昼ごはんは大学周辺、北山通りのレストランなどがあります。

天気がよければ、鴨川や京都府立植物園で弁当を食べても良いようです。

京都府立京都学・歴彩館 1階見取り図



ポスター会場（小ホール）見取り図

